

## 平成27年度 あきたスマートカレッジ (報告)

**P：解説！アーカイブズ**

**連携機関：県公文書館**

会場：秋田県生涯学習センター4階 第1研修室

【趣旨】歴史資料や公文書館の活動に興味・関心のある方が対象です。歴史資料の利用方法や保存活動についての理解を深める講座です。

回	期 日	テーマ	講 師	参加者数
1	7月31日 (金)	「秋田を走った鉄道馬車」	公文書班 副主幹 柴田知彰氏	40
2	8月28日 (金)	「企画展『藩政期の秋田』をみる」	古文書班 学芸主事 鍋島真氏	39
合計				79名

公文書館所蔵の歴史資料と、今年度の企画展について、お話いただきました。ここでは1回目の講座について報告します。



「(パワーポイントの画面に示した)この写真は、新橋にあった鉄道馬車の写真です。土崎港町上酒田町と秋田市大工町六堂辻の5.5kmを結ぶ鉄道馬車の写真は、これまでのところ見つかっておりません。見つけたら、大発見です」との夢のある話から講座は始まりました。「秋田馬車鉄道会社は、明治21年(1888)3月に敷設願書を県知事に提出したところから始まります。そして翌22年(1889)7月には営業運転に至ります。計画当初は、奥羽線建設も未定の時期で、『秋田県内を結ぶことも視野に入れた鉄道』として計画されていました」との言葉は驚きでした。話は、幻の「大館馬車軌道株式会社」へと移ります。「大館駅は市街地(旧城下町)からおよそ1.96km離れた位置に作られ、大館駅と市街地を結ぶ鉄道として計画されました。しかし、様々な理由で免許失効となり、幻に終わります。ひとかたまりの関係書類が県公文書館に残されており、誰でもその経緯を知ることができます」との言葉に、公文書館は歴史の宝庫であることを再認識しました。